



Good News for Japan

とぎのこえ

希望で満たす方

ケネス・メイナー



人生に困ったことはつきもの。たとえば、いつの間にか何かを使い切ったことに気づいた時には、散々な気持ちになります。毎朝飲んでるコーヒ、シリアルに入れるミルク、歯磨き粉、車のガソリン、チャージの切れた交通機関用のカードなどなど。

私が学生時代のことです。共同生活をしていた友人のなかに、実に奇妙なことをする人がいました。共用キッチンのミルクは、住んでいる人との共用で、飲み切

った時にあつた人が、新しいものを買って足すことになっていました。ところが、その彼は、ミルクがわずかに残った入れ物になんと水を足してしまつたのです！ある朝、私に悲劇が起りました。今でも忘れることができません。その日、シリアルの中でもお気に入り

のものを器に入れてミルクを注いだ私は、何とも透明に近い白い液体がシリアルを覆つたことに気づきました！ああ、おしいはずのものが……実に最悪なものになりました。

この「最悪ミルク」のことを知っているか、共同生活をしていた友人たちに聞いて回り、その中のテリーにも聞いてみました。すると彼は、ほんの少し残つていたミルクに水を足した、と白状しました。水を足すほうが楽だつたから、と。

あなたは、あなたの周りの人が何かを使い切り、途方に暮れていることに気づいたことがありますか？歯磨き粉ならちよつとずつブラシに絞りに出し、少しでも長くもたせることができます。けれども、何か大切なものを使い切つてしまうことを避けるためには、物事をもつと深く、真剣に考えなくてはなりません。特に、私たちの希望を使い切つてしまわないように心がけることが、大切でしょう。もし希望を失つてしまふならば、人生の様々な出来事が、私たちの心を圧倒してしまいます。

新しい年を迎えるこの時、皆さんは希望を失つてはいないでしょうか？私た

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

ちは希望をもてない時、空虚さや孤独で落ち込み、落胆と敗北感に囚われてしまいます。また、自分自身にわずかな希望しかもっていないことに苦しみ、ストレスを感じる時、その覆い尽くすような状態が、人生の様々な困難への対応に影響を与えます。水がミルクの代わりにならないように、他の何かによって、失われた希望を満たすことはできないのです。

とはありません。希望について私たちがすべきことは、どんな状況の中にあつても真実であり、失われることのない希望を与えるイエス様につながる決断をすることなのです。

イエス様はご自身についてこう言われました。「わたしは来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。」(ヨハネによる福音書10章10節)

けれども希望は、ある方との「関係性」の中に存在します。それは、イエス様とつながり、イエス様との関係性の中に自分の中心を据えることです。そうすれば、周りの人々、お会いするすべての人々に対して、良い影響を与えることができるでしょう。たとえどんなストレスの中に置かれていても、希望に満ちた状態を保つて生き、周りの人々に希望を指し示すことができます。

イエス様は、私たちが希望で満たしてください。その希望は決して尽きるこ

新しい年、ぜひ皆さんが、イエス様と共にある希望あふれる人生のスタートを切ることが出来ますように、と願っております。
(救世軍士官「伝道者」・司令官)

〈インタビュー〉



昭和31年4月、叔父の伊藤國義夫妻(写真前列中央)とせつ子さん(後列右から2人目)



*チャールズ・デビドソン送別の折(昭和30年2月9日横浜埠頭。デビドソンから左に2人目が孝之さん)



天満小隊の礼拝堂に据えられたステンドグラス

65 年前の喜びは今も

池田孝之・せつ子さん夫妻

「救世軍と出会ったきっかけについてお聞かせください。」

孝之 私は、昭和五(一九三〇)年に大阪の塚本で生まれました。神道の家で、神主さんが来てお葬式をするような環境でした。小学校卒業後に戦争が始まり、父たちは実家の九州宮崎に疎開。私だけ大阪に残って大阪の西淀川区にあった軍需工場で訓練を受け、働きました。終戦間近の空襲では、爆弾が工場近くに落ち、もう死ぬかと思いました。終戦後には私も宮崎で十年ほど農業をしましたが、きょうだい八人の暮らしは苦しく、大阪にいた兄の家に転がり込んで、働くことになりました。大阪で働いていた時、(こんなにも苦勞をしても一つも豊かにならない)と日々嘆いていました。そんな昭和二十七年七月二十九日の日曜日の夜、兄の家に近い天満の商店街を歩いていると、一人の救世軍の方が、「一度、キリスト教の聖書のお話を聞いてみませんか」と話しかけてきました。それが、天満小隊教会にあたる()に行くきっかけです。後

からわかったことですが、その方は日露戦争の時、旗艦三笠の砲兵長として東郷平八郎元帥と共に戦った方でした。けれども、日露戦争後にはお酒で事業に失敗し、天満の商店街でお酒を飲んで喧嘩をしていたそうです。そんな時救世軍で「野戦」と呼ぶ、屋外集会を通して信仰に入り、晩年には、天王寺公園で掃除のボランティアを長年したことが大阪市から表彰されたほど、生活を通して信仰の証しを立てておられました。

私にとってキリスト教も聖書のお話も初めてでしたが、その夜開かれた「救霊会」という伝道集会に出ました。そこで、「私は、神様の前で罪人である」と教えられ、恵の座(神様にお祈りをする場所)で祈りました。その時、私の心に何とも言えない喜びが与えられました。嬉しくて、当時一緒に住んでいた兄夫妻や職場の人に、その救われた喜びを話しました。その喜びは今も忘れられません。その時に与えられた聖書の言葉は、「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネによる福音書3章16節 口語訳)です。それからは聖書の話や

救世軍について学び、他の信徒の方々の話を聞いて、神様の教えを実行していきました。天満小隊には当時、内本清七夫妻や港一敏夫妻など、すばらしい信徒の役員の方々がおられましたので、よく学ぶことができました。内本さんは昭和二十五年頃、大阪で街頭生活者のための無料宿泊所を提案し、実行された方です。そして、昭和三十四年一月四日に神戸小隊の信徒だった堀江せつ子と結婚しました。

せつ子 私の母は、娘時代に少しキリスト教のことを知ったようで、私が子どもの頃賛美歌を口ずさんでいました。また、母の弟が救世軍で伝道者になっている、と聞いていました。でもその叔父は戦中音信不通で生死すらわからず、そのような立派な叔父がいると聞いて嬉しかった思い出があります。私の家族は、戦前にいた伊勢から、終戦後、伊勢志摩の山の中に疎開して、親子九人で移り住みました。そこで開拓や、真珠養殖の手伝いをしていました。けれども、終戦後のこと、様々な試練に遭い、生活も困難なため、きょうだいで、神戸に移り住みました。ある日、いつもは通ったところのない道を兄と二人で歩いていると、「救世軍」の文字が目に入りました。二人で、

「叔父さんは、救世軍にいらんだよね」などと話しながら会館の戸をそと叩いて、案内を乞うと、まるで夢のようですが、叔父の伊藤國義夫妻が出てきたのです。神戸に、小隊長牧師にあたるとして、赴任していたのです。兄と二人で「えらいこっちゃ、えらいこっちゃ」と足が宙に浮くようにアパートに帰り、きょうだい五人で、その夜開かれた救霊会に出席しました。集会の最後に、「そんなに苦勞しているなら神様にお祈りしなさい」と勧められ、叔父夫妻に恵の座で一緒にお祈りしてもらいました。祈りながら涙があふれ出た思いは、今も忘れられません。その時のことは本当に偶然ではなく、神様の憐れみと導き、と言うほかありません。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」(ヨハネによる福音書15章16節)という、聖書の言葉とおりの出来事だと思います。それから神戸小隊に通うようになりました。その後も多くの問題や困難がありましたが、その都度祈り、神様におまかせして、「まかせよ、まかせよ、いま(主に)たよれ!」(救世軍でよく歌われた賛美歌)と妹たちと口ずさんでいました。小隊長だった叔父は、その

後三カ月で異動になり、新しい小隊長が来られました。私は、生活を考えるとまだまだ結婚は無理、と思っていました。その小隊長と、天満小隊の内本夫妻のお世話で結婚の運びとなりました。

— 信仰を介したご結婚ということになりますか。

孝之 結婚当時、私は、豊中の病院に働きながら准看護師の資格を取り、勤務していました。せつ子は、一度会っただけで、よく私との結婚を決断してくれたと思っています。その病院には十二年勤め、奈良県の国立療養所に転職、住まいの高槻を朝五時に起きて職場に通う、という生活を定年まで続けました。私は、お酒を飲まないということ勤務先の方々に伝え、キリスト教信仰を鮮明にして理解を得ることができました。三交替制の勤務でしたから、仕事の合間に小隊でお手伝いのできたのはありがたかったです。定年退職後は、天満小隊の会館建て替えのために自分の時間をすべて献げようと神様



結婚式で

に祈り、仕事の誘いも断つて、様々な準備の書類作りから、平日夜の会議に出て、建物の建築中は毎日工事を見に行く生活をしました。

今から二十二年前に、神様のお助けによつて新しい会館の献堂式を迎えることができました。

信仰をもつて以来、常に、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」

(マタイによる福音書6章33節)という聖書の言葉に従うことを貫いていると、本当に神様は必要なものを与えてくださいました。神様にすべておまかせするのが一番です。今でも、小隊では、集案会内のための看板を筆で書いたり、会館のお掃除をさせてもらったりしています。神様が健康を支えてくださっていることを感謝しています。

私は、心臓にペースメーカーを入れていて、すでに何回か交換しました。手術の時は「もう死ぬかもしれない」と十字架に架けられる気持ちになります。痛みや苦しみのない、イエス様が味わわれたものだなあ、と思つて過ごしました。おかげさまでそのたびに健康が与えられ、救世軍の街頭募金である社会鍋にも五十年余奉仕することができました。

せつ子 子どもは男の子が二



二人の息子と

人を与えられました。主人は、小隊を中心にする人で、毎日曜日小隊に通いまし

た。生活は豊かではないけれど、困ることもなく、ただ主人について歩いてきました。

主人は、信仰一筋で、聖書の御言葉に忠実な人ですから、不安も心配もなかったです。

結婚当時、なんのとりえもありませんでしたが、礼拝で御言葉を学び、生き方を学んできました。また、家庭団という女性の集まりでは、礼拝教育、交友、奉仕という四つのモットーを通して、日常生活に必要なことをたくさん学ぶことができました。裁縫やお料理など、家庭団で育てていただいたと思つています。私も主人もきょうだいが多く、生活にあまりゆとりはなかったのですが、物で幸せではなく、小隊の皆さんからのたくさんのお助けや励ましによつて支えられてきたと思つています。ただ不思議と、無からだんだんに有になつてきました。住まいも、神様がその都度、必要な大きさを与えてくださいました。

主人の仕事には、きちんとお休みがありましたから、ご近所のお子さんが集まれるよ

うに、土曜学校もさせていたいただきました。小隊から先生をお招きして、神様のお話や本当のクリスマスをしなくても教えてあげられれば、と。小さな家にはその子どもが入りクリスマスにはその子どもたちでイエス様の聖誕劇をしてくれました。また、親御さんにも我が家がクリスマスチャンだどわかつていただき、良いお交わり、ご親切を受けました。

私はある医院のレセプトのお仕事を長くさせていただきましたが、院長先生ご夫妻はとも立派な方で、生活面でも大変お世話になり、医院をやめられてからもお付き合いくださっています。土曜学校にもよく差し入れをしてくださいました。神様が私たちへの助け人として与えてくださった、と感謝しております。

神様は、本当に、まるでハトがプレゼントを持ってくるかのように、いつも必要なものを与えてくださいました。人



土曜学校に集まった子どもたちと

知では到底はかり知ることができない、豊かな恵みをいただく生涯でした。

— 孝之さんは、一月で八十八歳になられるのですか。

孝之 信仰を始めて今日まで六十五年間神様が私を守り、導いてくださったことをいつも感謝しています。年を重ね、衰えてきましたが、神様を知らない人々の魂の救いを神様に祈り続けたいと思います。

以前、英国の救世軍が発行している『いのちのことは』で紹介されたこの歌の歌詞が、私の今の思いそのものです。

私に燃え上がる信仰をお与えください

熱と光とを放つ信仰を私の全霊があつち思いで奮い立ち

勇んで戦いに赴くために

(「救世軍歌集」英語版) ウィリアム・ピアソン詩 杉山克己訳

せつ子 今私は、柏寿会という高齢者の集いのお手伝いをしていただいております。

一人でも多くのご高齢の方に心の平安が与えられ、少しの時楽しんでいただきたい、そのために

- 私の近くの救世軍を紹介してください。
□ キリスト教についてもっと知りたいです。
□ 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

ご氏名

ご住所

の方々が喜びをもつて人生を歩んでいかれるよう祈っております。また、参加される方へのプレゼント作りをしています。それを持つていらっしゃる方に、誰かに聞かれた時に、「救世軍でもらったの」と言つてくださったら嬉しいな、と。

私の好きな御言葉は、たくさんあるのですが、一つあげるなら、これでしょうか。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」(テサロニケの信徒への手紙一 5章16-18節)

(天満小隊〔教区〕所属)



※英国出身の救世軍士官。終戦後日本の救世軍のため尽力した。

裏 この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナー (救世軍本営 東京都千代田区) <http://www.salvationarmy.or.jp>

社会鍋募金へのご協力、 ありがとうございました

昨年12月、全国主要都市でおこなわれました。皆様から寄せられた寄付金は、各地の救世軍小隊を通して、様々な困難を覚えている方々や街頭生活者への支援、また国内外の災害被災者支援などに用いさせていただきます。皆様のご協力に心からの御礼を申し上げます。



神の愛を届けています。また、国際的な協力的体制の下、人身取引の被害者支援や開発途上国の人々の自立支援の推進なども、積極的におこなっています。日本での働きは一九九五(明治28)年に、ブースによって派

創立は一八六五年。英国のメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブースが、東ロンドンのスラム街で働きを始めました。彼は、当時の社会の最下層にいる人々に、一番必要としているもの—温かい食べ物、清潔な衣類、宿泊所、また教育などの提供をおこない、物心両面からの救いを目指しました。やがて、より多くの人々や社会

の必要に応えるため、統率力と機動力に富んだ軍隊流の組織を取り入れて、全世界にその働きを広げていきました。現在、百二十八の国と地域で救世軍の働きが進められています。どの国においても創立の精神は脈々と受け継がれています。街頭生活者の支援、厳しい境遇にある児童や女性の保護、高齢者の介護、アルコール依存症者の回復支援、災害被災者の支援などを通して

遣された士官(伝道者)たちによって始められました。日本人最初の士官となったのは山室軍平です。だれにでもわかりやすい説教と、『平民の福音』、『民衆の聖書』などの著書、機関紙への執筆でキリスト教を広めました。昨年より、山室の生涯を描いた映画『地の塩 山室軍平』が全国各地で上映されています。救世軍は、日本においても、失業者への職業斡旋や免囚保護、廃娼運動の推進、結核療養所設立など、社会福祉や医療面の働きにおけるパイオニアとして活動してきました。現在は、時代と共に変化してきた様々な社会の必要に応える働きを進めながら、四十三の小隊(教会にあたる)、十二の分隊(伝道所にあたる)、二つの病院(ホスピス併設)、十九の社会福祉施設を通して、神の愛を伝えています。

国際的なプロテスタントのキリスト教会で、聖書に示された唯一の神を信じています。そのモットーは、「心は神に、手は人に」です。人々の必要に応えながら神の愛を伝えていきます。創立は一八六五年。英国のメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブースが、東ロンドンのスラム街で働きを始めました。彼は、当時の社会の最下層にいる人々に、一番必要としているもの—温かい食べ物、清潔な衣類、宿泊所、また教育などの提供をおこない、物心両面からの救いを目指しました。やがて、より多くの人々や社会

の必要に応えるため、統率力と機動力に富んだ軍隊流の組織を取り入れて、全世界にその働きを広げていきました。現在、百二十八の国と地域で救世軍の働きが進められています。どの国においても創立の精神は脈々と受け継がれています。街頭生活者の支援、厳しい境遇にある児童や女性の保護、高齢者の介護、アルコール依存症者の回復支援、災害被災者の支援などを通して

遣された士官(伝道者)たちによって始められました。日本人最初の士官となったのは山室軍平です。だれにでもわかりやすい説教と、『平民の福音』、『民衆の聖書』などの著書、機関紙への執筆でキリスト教を広めました。昨年より、山室の生涯を描いた映画『地の塩 山室軍平』が全国各地で上映されています。救世軍は、日本においても、失業者への職業斡旋や免囚保護、廃娼運動の推進、結核療養所設立など、社会福祉や医療面の働きにおけるパイオニアとして活動してきました。現在は、時代と共に変化してきた様々な社会の必要に応える働きを進めながら、四十三の小隊(教会にあたる)、十二の分隊(伝道所にあたる)、二つの病院(ホスピス併設)、十九の社会福祉施設を通して、神の愛を伝えています。



司令官ケネス・メイナー大佐は、山室軍平が学んだ、同志社大学に招かれ、礼拝を導いた後、大教室で山室についての講演をした(2017年11月1日)

映画『地の塩 山室軍平』上映中!

名古屋・名古屋シネマテーク 1月13日(土)～19日(金)
順次 仙台、新潟、広島で公開予定
軍平役 森岡龍と 妻機恵子役 我妻三輪子

世界最高峰の救世軍金管バンド ニューヨーク・スタッフ・バンド 今春、29年ぶりに来日!



3月20日(火)19:00 ニューヨーク・スタッフ・バンド・コンサート in 大阪
ザ・シンフォニーホール (S席4000円、A席3000円、B席2000円)
22日(木)18:30 第2回 救世軍チャリティコンサート「子どもたちの未来のために」
東京オペラシティコンサートホール(招待券方式)
23日(金)18:00 ニューヨーク・スタッフ・バンド・コンサート in 東京
ギャラクシティ西新井文化ホール(1000円 小学生以下 500円・全席自由)
24日(土)11:30 千代田区プラスフェスに参加、パレード、ロビーコンサートもあり
お問い合わせは、救世軍本営 NYS B2018ツアー事務局 (03-3237-0838) へ

☆第二回救世軍社会鍋俳句コンテスト

募集内容: 社会鍋を題材にした未発表作品、一人二句まで
応募方法: ●封書での郵送(ハガキ不可)、●ファックスでの送付、●救世軍ホームページ応募フォームから(詳細は、左記の「救世軍社会鍋俳句コンテスト」係まで)

応募資格: 不問
締め切り: 二〇一八年三月三十一日(消印有効)
賞: 優秀賞一句、特別賞二句、ほのぼの賞二句
授賞式: 二〇一八年上旬の創立記念コンサート席上予定
選者: 三浦喜代子氏(日本クリスチャン・ペンクラブ代表、「ひまわり文章塾」主宰) 他

著作権: 応募作品の著作権は救世軍に帰属
送り先: 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町一十七
救世軍本営「救世軍社会鍋俳句コンテスト」係
TEL 〇三―三三三―七〇八八― FAX 〇三―三三三―三三三―五八八

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価
発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部四〇円(六六円) 十五日号一部六〇円(六六円) クリスマス特集号十二月一日号一部一〇〇円(七七〇円) 一年分二六〇円(送料七五〇円) 振替: 〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍
代表者 ケネス・メイナー
編集人 寺澤 真由子
〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町一十七

電話 東京(03)三三三-〇八八一
発行所 救世軍本営
印刷所 図書印刷株式会社

(この欄に通信文を書くとき第三種扱いになりません)
聖書は新共同訳を使用しています © 共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会